

よりよく生きる

2年生 道徳授業の紹介

時を超えて～樫野で生まれた絆（読み物資料）



【資料のあらすじ】

主人公、沼田純一さんは、イラン・イラク戦争中、テヘランから脱出できず絶望するも、トルコの救援機のおかげで間一髪、日本に帰国することができた。その後、1890年のエルトゥールル号遭難事故の話を知った沼田さんは、駐日トルコ共和国大使館を訪問する。両国の交流は今も続いており、災害時には互いに助け合う活動が続いていることを知る沼田さん。沼田さんは、両国をつなぐ支援団体に寄付を行い、友好の輪を更に広めたいという気持ちで、いろいろな人に自分の体験を話しながら、人々のきずなや思いが世界中の人々に届くことを願う。

トルコの人々が、エルトゥールル号事件を100年以上も語り継いできたのはなぜだろう？

- ・日本人の姿を見て、自分たちもこうなりたいという思いを伝えたかったから。
- ・国と国とが助け合いながら活動していることを知ってもらいたかったから。
- ・沼田さんが、救援への感謝の気持ちを忘れてはいけないと思ったから。
- ・日本人のすばらしさを知り、語り継いでいきたい、忘れてはいけないと思った。
- ・こんなに優しくされたことが、今までになかったことだったから。
- ・恩返しをするため。 ・日本人とともに、助け合っていきたいと思ったから。

今日の学習を通して学んだことや感じたことを書きましょう。

・私は、厳しい状況の中でトルコ人を救った日本人もすごいけど、そのことを素直に尊敬し、語り継いできたトルコの人たちも素直で優しい心を持っていると思いました。私も、他の人から優しくしてもらったら、素直に尊敬して、恩返しできる人間になりたいと思いました。

今回の資料は、国や時代を超えて助け合おうとする心があることの自覚を通して、世界平和と人類の発展に貢献しようとする沼田さんの生き方から学ぶことができる資料でした。

現代社会は、さまざまな文化や価値観を持つ人々が尊重し合いながら共生していくことが重要な課題となっています。そして私たちは、**世界の中の日本人としての自覚を持ち、また同じ世界に生きる人間同士という前提に立って、国際的に協力し合っていく態度を身に付けていくことが必要**です。沼田さんの生き方から、2年生もいろいろなことを考え、たくさんの意見が出た授業となりました。